

(別紙様式3)

令和2年3月31日

事業完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 東京都渋谷区渋谷1-21-18
管理機関名 学校法人 渋谷教育学園
代表者名 理事長 田村哲夫 印

2019年度WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に係る事業完了報告書を、下記により提出します。

記

- 1 事業の実施期間
2019年5月24日（契約締結日）～ 2019年3月31日
- 2 事業拠点校名
学校名 渋谷教育学園渋谷高等学校
学校長名 田村 哲夫
- 3 構想名
協働型探究学習による、SDGs達成を担う次世代地球市民の育成
- 4 構想の概要
テーマをSDGs（持続可能な開発目標）とし、中でも、平和、貧困、保健、ジェンダー、水問題、エネルギー、気候変動、イノベーションなど、高校生の生活に身近な課題を取り上げ、その特徴でもある参画型、統合性を活かした取り組みとする。教科連携型学習アプローチと探究学習活動を重視し、大学等の学問ネットワークを利用できる仕組みを整えることで、教科の枠に収まらない学びをカリキュラムの中に位置づける。それにより、社会課題に対する認識を深めると同時に、課題設定力や論理的思考力の強化を図る。さらに自らネットワークを作りだし、活用する意欲とスキルを身につける。また、高校生が主役となった国際的な場（学びのオリンピック（仮称））を定期的を開催することで、個々の対話力、英語力、探究力を高め、同じ理念を共有する高校と協働して空間を超えたチームワークを学ぶ。取り組みの見える化・ネットワーク化は、本校のSGHから続く研究成果の発信を容易にし、全国規模でのSDGs達成を担う次世代地球市民の育成を可能にする。
- 5 教育課程の特例の活用の有無
無し

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間 (2019年5月24日 ~ 2019年3月31日)											
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
P & Jプロジェクト	←											→
P & Fプロジェクト	←								→			
R & Aプロジェクト	←									→		
特別講座			←	→				←	→			↔
運営指導委員会		◇								◇		
報告書及びHP									←			→
学びあいの場活動			←	→						←		→

(2) 実績の説明

本学園は、「自調自考」—自ら調べ、自ら考える—という教育の基本目標のもとに、「高い倫理感を養う」、「国際人として資質を養う」ことを教育目標に掲げている。この3つの目標のもと、社会課題に対する問題意識をもち、課題探究活動、社会貢献活動を通じて、その解決にむけて尽力する姿勢を育む教育活動に取り組んできた。平成26年度より、学園内の2つの高校がそれぞれSGHの指定を受け、グローバル人材の育成に取り組んでいる。その連携のもとで進めてきた人材育成をより発展的なものとすべく、海外や遠隔地の高校に連携のネットワークを広げ、協働して人材育成を進めるため、下記のように、連携校との合同プログラムを行った。また、多くの人材を輩出している東京外国語大学、電気通信大学との連携を進め、高大連携のもと、より発展的な学びを求める生徒たちへのカリキュラムの構築支援のための検討を進めた。引き続き、海外への留学や進学、協働型研修、国際会議、国際コンクールへの参加、報告への支援を行った。

① ALネットワーク委員会の開催

ネットワーク構築のための特別委員会を開催し、国内、海外との情報共有、連携構築のための準備を行った。(2019年度開催回数7回)

② カリキュラム特別委員会の開催

実施計画の運営、検討、評価を行う特別委員会を開催し、特に3つの大型プロジェクト(Peace, Justice and Strong Institutions Project / Partnerships for the Goals Project / Research and Analysis Project)に関する研究開発及び高大連携プロジェクトの検討に取り組んだ。

(2019年度開催回数14回)

③ 連携校及び近隣校との協働プロジェクトへの支援

- ・学園の取り組みを公開し、SDGsへの理解を深める活動として、オープンスクールデーを渋谷高等学校にて開催した。開催にあたっては、運営ボランティアとして、在校生が参画し、様々なイベントを通じて、活動の理解を深めた。このプロジェクトには、連携校である渋谷教育学園幕張高等学校及び近隣校2校(豊島岡女子学園・浅野学園)の生徒も参加した。また、清教学園の教員も招待し、次年度にむけての参加の在り方について協議した。

(実施日:8月28日(水))【学びあいの場活動】

- ・広島女学院を訪問し、核と平和について次世代への継承をテーマに自分たちの取り組むべきことを考える機会を設けた。【Peace, Justice and Strong Institutions Project】
- ・渋谷高等学校で開催された探究活動の発表会に、連携校である清教学園高等学校の教員、生徒を招待し、本校生徒とともに、発表(日本語または英語)を行った。発表は、ポスターセッション形式で行い、それぞれが取り組む活動についての理解を深める機会を設けた。

【Research and Analysis Project】

(清教学園の参加者 教員2名 生徒4名)

④ 連携大学との協働カリキュラム開発および発展的な学びの場支援

- ・ 渋谷高等学校の授業へ、東京外国語大学の大学院生に参加していただき、異文化への理解を進めるとともに、社会課題に対する日本以外の国の考え方に触れる機会や、課題解決に向けた生徒へのアドバイスとともに、カリキュラム開発に関する助言をいただく機会を設けた。(2019年度 来校人数 22名)

【Peace, Justice and Strong Institutions Project、Partnerships for the Goals Project】

- ・ 電気通信大学が主催する The Irago Conference 2019 に教員を派遣し、次年度参加に向けた検討を進めた。また、高校と大学の連携についての会議への出席し、今後の連携の在り方についての情報共有を行った。
- ・ 卒業生ネットワークの構築支援
生徒の探究活動を支援するため、卒業生によるライティングセンターを開催した。開催にあたり、より多くの卒業生から協力が得られるようネットワークの構築に取り組んだ。また、来校せずにアドバイスがもらえるように、メールによる相談が可能になるような仕組みの構築にも取り組んだ。
(ライティングセンター協力卒業生数 75名)
- ・ 外部講師による講演会
2050年の世界を理解するため、専門家を招いての講演会を行った。大規模なものから、ワークショップを伴う小規模のものまで、開催できるよう支援を行った。
(2019年度講演会開催 16回)
- ・ マレーシア・日本国際工科院との連携
生徒の発展的な学びを可能にするため、マレーシア・日本国際工科院との連携プロジェクトの検討を進めた。現地視察を含め、環境問題に関する探究を支援できる体制の検討を行った。(現地視察 2019年12月)
- ・ 生徒の留学・進学を増やすために、海外大学との連携を視野に視察を行い、情報の共有を図った。(現地視察 2019年8月及び11月)

⑤ 国際協働プロジェクト実施

下記の交際交流プロジェクト実施についての支援を行った。

- ・ **St. Stephen's Episcopal School との協働【フロリダ研修】**
人間の安全保障について、日米の高校生が授業を通じて、学びあう機会を設け、実施した。(2019年2月実施 派遣生徒 10名 教員 1名)

【Peace, Justice and Strong Institutions Project】

- ・ **Ruffles Institution との協働【シンガポール研修】**
授業参加を前提とした相互交流プロジェクトの実施を支援した。ホームステイを手配し、拠点校と連携校の2校での受け入れ準備を整えた。
(2019年9月訪日 受入れ校：渋谷教育学園渋谷高等学校及び幕張高等学校)
*2020年3月予定のシンガポール研修は、新型コロナ感染のため中止
- ・ **Loreto College / Nazareth / Star of the Sea との協働【オーストラリア研修】**
授業参加を前提として相互交流プロジェクトの実施を支援した。ホームステイを通じて、多民族国家の現状や移民についての理解を深めるプログラムを行った。
(受入れ人数 16名)
*2020年3月のオーストラリア研修は、新型コロナ感染にともなう措置のため中止
- ・ 世界大会への派遣
スペイン及び台湾で開催された高校生世界会議に代表生徒を派遣する支援を行った。

Global Responsibility 2019

(主催校 Col-legi Mare de Deu del Carme)

(派遣生徒 14名=渋谷教育学園渋谷高等学校 6名+幕張高等学校 8名、教員 1名)

The2019 International Senior High School Students Summit

(主催校 台湾国立師範大学・台北市立中正高中校)

(派遣生徒5名=渋谷教育学園渋谷高等学校5名、教員1名)

- ・さくらサイエンス受け入れ

さくらサイエンス事業により、東南アジア（インド・バングラディッシュ・インドネシア・フィリピン）の高校生との交流を支援した。

(開催日時 2019年4月21日(木) 10時~16時 生徒144名 教員24名受け入れ)

- ⑥ 生徒の自主的な社会課題活動への支援

生徒たちの自発的な活動を支援すべく、校内での広報や保護者への説明を行った。校内で生徒が開催するさいの留意事項を定め、実施マニュアルの共有と公開を進めた。

また、高校生による会議会場として、渋谷高等学校の会場利用を進めた。

(高校2年生による活動206名/その他の活動 多数/会場利用4回)

- ⑦ 運営指導委員会開催

取り組みの状況を確認、指導・助言をいただくために、2回の運営指導委員会を予定した。なお、第2回については、新型コロナウイルス感染拡大による中止を余儀なくされ、文書による説明を行った。(開催回数2回)

- ⑧ 国内外からの視察・訪問の受け入れ

本校の取り組みの理解を進めるため、積極的な視察の受け入れを行った。

特に、ジャマトラ・ウィクラマヤヤケ ユース担当国連事務総長特使の訪問では、校内でミニディスカッションの会を設け、若者の活動への理解を深めた。

(海外からの視察4回 台湾・トルコ・モンゴル・国連特使)

(国内の視察10回 主権者教育及び文科省による視察を含む)

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間 (2019年5月24日 ~ 2019年3月31日)											
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
P&Jプロジェクト	←										→	
P&Fプロジェクト	←								→			
R&Aプロジェクト	←									→		
特別講座			←→					←→				←→
運営指導委員会		◇								◇		
報告書及びHP									←→			→
学びあいの場活動		←→										

(2) 実績の説明

探究型学習活動を教科、学校の枠を超えた連携のもと発展的な内容とし、高校生同士のネットワークを構築する目的のために計画に基づき、実施した。

① Peace, Justice and Strong Institutions Project

平和な社会のあり方とその構築課題について、教科横断的な学びを通じて、近現代が抱えるジレンマについての理解を深める。多様な文化、価値観に触れるとともに、AIや宗教など、幅広い分野に学びを深めた。現地でのフィールドワーク、広島女学院との交流を通じて、一人ひとりの意見を持った上で、チームで議論し、平和の構築に自分たちができることを発表した。発表や成果物の作成については、東京外国語大学の大学院生の指導を受けた。代表チームの生徒10名が、連携校であるフロリダの St. Stephen's Episcopal School の授業に参加し、英語で授業を行った。

(連携教科：情報・公民・英語・国語)

(連携校：広島女学院、St. Stephen's Episcopal School、東京外国語大学)

(対象：高校1年全員 年間)

② Partnerships for the Goals Project

SDGs が策定された経緯を理解し、貧困、健康、ジェンダー、水問題、気候変動、イノベーションをテーマとして、その要因について、教科の枠を超えて学んだ。その上で、SDGs に取り組む企業や機関、団体と連携し、関連した社会貢献活動を自ら見つけて参加し、その成果を発表した。社会活動としての SDGs に触れることで、世界とのつながりを意識し、自分たちの行動が SDGs 達成に影響しているという自覚を育んだ。また、学びを他者と共有すべく、校内での主体的なワークショップを開催した。

(連携教科：英語・地歴・生物・保健体育・家庭)

(連携校：渋谷教育学園幕張高等学校)

(連携大学：電気通信大学・東京外国語大学)

(連携団体：福祉法人・民間企業・地域ボランティアなど)

(対象：高校1年希望者・高校2年全員・高校3年希望者 1・2学期)

③ Research and Analysis Project

2～3年にわたる長期な研究に取り組み、フィールドワーク、アンケート、実験を行い、論文を作成した。作成過程において、卒業生の支援をうける機会を設け、スキルを身につけることができた。優秀論文発表会を実施し、下級生や連携校の生徒とともに、自分たちの学びを共有した。

(連携教科：理科・数学・情報・国語・総合的な探究の時間)

(連携校：清教学園高等学校・渋谷教育学園幕張高等学校)

(連携大学：電気通信大学・東京外国語大学・企業)

(対象：高校1年全員・高校2年生全員・高校3年生希望者)

④ 海外プロジェクトの充実と参加支援

オーストラリア研修、海外短期留学、国際会議への派遣等を通して、英語4技能が身についたことを実感させると共に、多様性を学ぶことで、地球市民としての自覚を促した。さらに、将来の目標として、海外の大学において研究を深めたいと希望する生徒に対しては、海外進学への支援に取り組んだ。国際会議で発表した研究内容は、12月に行われた全国フォーラムで文部科学大臣賞を受賞するなど、多くの実績をあげた。

(連携校：渋谷教育学園幕張高等学校・Ruffles Institution・Loreto College)

(対象国：オーストラリア・アメリカ・シンガポール・UK・スペイン・台湾)

(対象：中学3年生希望者・高校生希望者)

⑤ 特別授業・講演会の実施（年14回）

土曜日や夏休みを利用した、多様な言語による構想内容に関する特別授業を年間のカリキュラムに位置づけ、実施した。今年度は、長期休暇期間内だけでなく、放課後も活用することができ、予定を超える回数を実施できた。これにより、連携校・連携大学、企業とのつながりが深まった。

(講演会テーマ AI・環境・LGBT・異文化理解・宗教等)

(対象：全学年希望者)

⑥ 報告書及びホームページの作成（3学期）

年間の取り組みを公表できるよう報告書を作成、また国内外の視察を積極的に受け入れ、活動の周知を図った。また、連携校と協働できるプログラムを検討し、実際に連携校生徒を招待し、事例発表や研修を実施した。

⑦ 学びあいの場の開催（夏休み）

学園の取り組みを公開する機会として、オープンスクールデーを開催した。連携校及び近隣の学校の生徒も参加し、SDGsについて考え、意見を交換する機会を設けた。開催にあたっては、事業拠点校の生徒たちが、ボランティアとして、運営に携わった。

テーマ：SDGs について考えよう

取り組み例：SDGs 関連本によるビブリオバトル

東京五輪でのペットボトルの消費量を半分にするアイデアソン
気候変動に関する国際的取り組みを話し合う模擬国連活動
世界の貧困対策における公的支援のあり方についての英語ディベート
LGBTQ への啓発活動など社会課題についてのプレゼンテーション

8 目標の進捗状況、成果、評価

- (1) 生徒には、授業アンケートと WWL アンケートの 2 種類を実施し、SGH からの連続的な変化を成果として分析する予定である。今回は、高校 1 年、2 年のアンケートの実施日は休校となり、4 月に延期となったことから、高校 3 年生のみ分析となった。アンケートでは、地球市民としての意識や意欲がどの程度高まったかに注目した。

項目 2 4 日本がグローバル社会の中で存在価値のある国になるよう自分ができることしたい

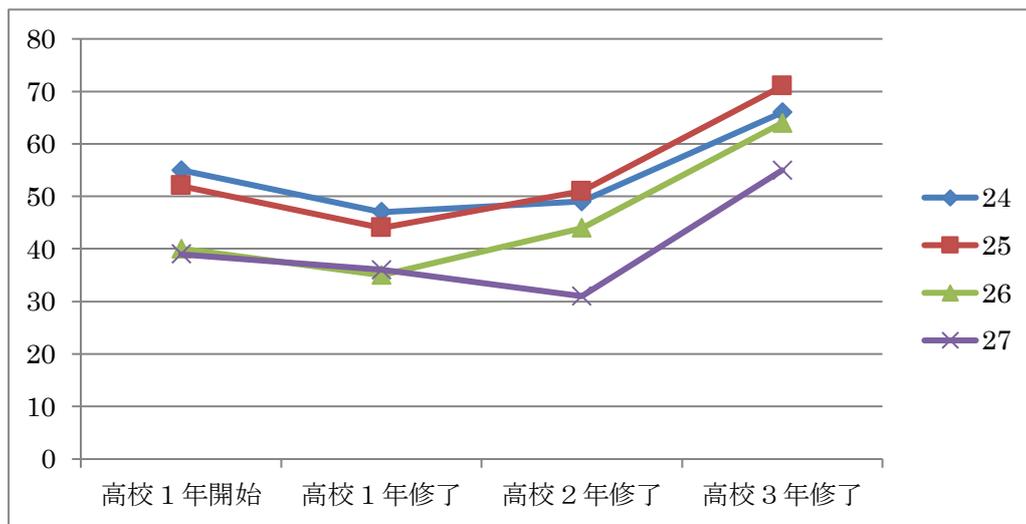
項目 2 5 地球社会が抱える課題の解決に貢献したい

項目 2 6 グローバルリーダーとして活躍したい

項目 2 7 海外の会社や国際会議での発言をしたい

リーダーとして活躍したいという項目だけでなく、地球市民として活躍することを意識する生徒が増えていることが読み取れる。

それぞれの項目で「多いにそう思う」「そう思う」と答えた生徒の割合



- (2) 活動事例における生徒たちの活躍

① Peace, Justice and Strong Institutions Project に関する活躍

- ・高校生 G 2 0 サミットの開催及び Y20 サミットのオープニングセレモニーでの発表
※全国から約二百名の高校生たち本校に集まり、AI と教育、少子高齢化と労働不足、ジェンダー平等と働き方改革に関する問題について話し合い提言をまとめ、Y 2 0 に提出
- ・第 5 9 回国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト全国大会金賞

② Partnerships for the Goals Project に関する活躍

- ・第 13 回全日本高校模擬国連大会 優秀賞
- ・全国高校生フォーラムポスターセッション部門 文部科学大臣賞受賞
- ・第 31 回知能ロボットコンテスト 下川ロボット「Stella」 チャレンジャーズコース 参加ロボット 63 台中 4 位
- ・拓殖大学 後藤新平・新渡戸稲造記念 第 21 回全国高校生・留学生作文コンクール

2019 優秀賞 (3~6 位/2,555 人)

- ・全国中学生人権作文コンテスト東京都大会 特別優秀賞
- ・小さな親切作文コンクール 入選
- ・LGBTQ セミナー「ふつうってなんだろう」主催

③ Research and Analysis Project に関する活躍

- ・京都先端科学大学主催 高校生論文コンテスト 2019 (バイオ環境学部部門) 佳作
- ・図書館振興財団主催 第 23 回 図書館を使った調べる学習コンクール
調べる学習部門・高校生の部
優秀賞・毎日新聞社賞 受賞
優秀賞・読売新聞社賞 受賞
優秀賞・図書館振興財団賞 受賞
- ・第 19 回高校生地球環境論文賞 受賞
- ・東京家政大学生活科学研究所主催「生活をテーマとする研究・作品コンクール」
佳作
- ・旺文社主催「第 63 回 全国学芸サイエンスコンクール 人文社会科学研究部門」
入選
- ・全国高校生フォーラムポスターセッション部門 文部科学大臣賞受賞
- ・教育と探究社主催 クエストカップ全国大会 出場
- ・日本政策金融公庫主催 第 7 回 高校生ビジネスプラン・グランプリ in TOKYO
東京都知事賞大会 出場

④ 海外プロジェクト及び英語を活用する大会での活躍

- ・Global Responsibility 世界高校生会議において
Environmental and Natural Disaster 部門 優勝 Sustainability 部門 準優勝
- ・高校模擬国連世界大会 優秀賞受賞
- ・第 8 回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯
全国大会 第 3 位 ベストディベーター賞 第 1 位、第 3 位
- ・第 8 回日本高校生パラメンタリーディベート連盟新緑杯 東日本大会
準優勝 ベストスピーカー賞経験者部門 第 1 位
ベストスピーカー賞新人部門 第 3 位
- ・第 8 回日本高校生パラメンタリーディベート連盟新緑杯 全国大会 準優勝
- ・大学生ディベート大会第十六回エリザベス杯 第 6 位
- ・JWSDC 世界高校生ディベート大会日本戦 優勝 ベストスピーカー賞 総合 4 位
※中国や東南アジアのナショナルチームを招いての大会。
- ・2019 年度 WSDC 世界高校生ディベート大会 E S L 国 ベスト 5 入賞
※世界で一番レベルの高い高校生のディベート大会。この成績は日本新記録
- ・Tokyo Debate Open 準優勝 ベストスピーカー賞 第 5 位
- ・第 23 回 東京都高校生英語ディベートコンテスト 優勝
- ・2019 年度ディベート韓国大会 Korea School Open ベスト 8 入賞
- ・パラメンタリーディベート大学大会 Feminism Open 2019 第 5 位
ベストディベーター賞 第 3 位
- ・第 23 回 東京都高校生英語ディベートコンテスト 優勝
- ・東京大学主催大学生ディベート大会 第 10 回银杏杯 ベスト 8 入賞
- ・日本高校生パラメンタリーディベート連盟東京都オープン 2020 優勝
- ・第 5 回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会
優勝 ベストスピーカー賞第 1 位、
- ・第 5 回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会 第 3 位
- ・WSDC 世界高校生英語ディベート大会 2020 全日本代表選考試験 2 名合格
- ・第 9 回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯東京都大会

準優勝 ベストスピーカー賞 第3位

⑤ その他の大会での活躍

- ・第14回全国高校生短歌大会 短歌甲子園2019 3位
※予選全国52校67チーム、本選全国21校21チーム中
- ・第12回全国数学選手権大会（数学甲子園）本選出場
※715チーム中36チームが全国大会に出場
- ・第30回数学オリンピック 本選出場
※全国大会出場相当、全受験者数5,045名中上位217名
- ・第20回若山牧水青春短歌大賞 高校生部門 大賞受賞
※高校生5,563首応募の中第1位
- ・株式会社Nadie 起業（ショップの運営）

⑥ 特別授業・講演会に関する活躍

- ・「AI時代を生きる私たちの命～どうなる？ 医療とテクノロジーがつくる未来～」
（主催：読売新聞社、協力：日本臓器移植ネットワーク）フォーラム参加
- ・トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム高校生コース説明会開催
- ・高校生環境サミット（開催延期）
- ・主権者教育の取り組み～岐阜の中学生と考えよう～（読売教育ネットワーク）
- ・明日へのレッスンセミナー開催（主催：朝日新聞社）

9 次年度以降の課題及び改善点

年度末に新型コロナウイルス感染症に対する措置が講じられたため、アンケートや成果物の評価に支障がでる事態となり、次年度は残った業務を完遂した上で、新年度を始めることとなる。また海外連携校の休校があいつぎ、大幅な見直しを迫られることも課題となる。

WEBを活用した会議で一定の成果をあげることはできたが、その一方でFace to Faceの関係性が、生徒たちの学びを深化させ、刺激を与えることがわかったので、引き続き実施できるようにすることが課題である。

業務としては、高大連携における大学との連携強化や国内での連携校との交流が引き続き課題であり、各学校の学事暦をみながら学習テーマをそろえ、活動することが弱かったので改善していく予定である。

なお、生徒や教員がICTを使った会議を複数回実施したが設備的な課題があり、WWLに適した容量をいかに確保するかが課題となった。

【担当者】

担当課	学校法人 渋谷教育学園	TEL	03 - 3400 - 6363
氏名	河元 保之	FAX	03-3486 - 1033
職名	事務長	E-mail	kawamoto@shibushibu.jp